

女性の衣服形態に対する色彩の適合性に関する女子短大生の認知
——衣服形態、色彩のイメージ一致度と適合性との関係——
梅花短大 ○川端澄子 鳴門教育大 藤原康晴

1)

目的 前報において、女性の衣服形態（6体）に対する色彩（6色）の適合度の判定を測定したところ、被験者間に一致性が認められ、衣服形態、色彩の各イメージの似たものが適合すると認知される傾向のあることがわかった。本報は色彩を40色に増やし、各衣服形態に適合する色彩と不適合の色彩を女子学生に判定してもらい、その判定と衣服形態、色彩の各イメージ一致度との関係を分析した。

方法 ワンピーススタイル4体、スーツスタイル2体の計6体を線画きした衣服形態と、JCC40のカラーカードを判定者（女子短大生106名）に配付し、各形態に「もっとも適合すると思う色彩」と、「適合しない色彩」を選んでもらった。同時に各衣服形態、各色彩のイメージを13個の形容詞対（7段階尺度）で測定した（1992年9月に教室内）。各形容詞対ごとに各衣服形態、適合する色彩、不適合な色彩の相関行列を求め、それらの相関行列を積み重ねたマトリックスを入力データとして多次元尺度分析（INDSCAL）を行った。

結果 抽出された2つの次元から構成される意味平面（1次元はカジュアル／フォーマル、2次元は派手／地味）に各衣服形態、各色彩をプロットしたところ、各衣服形態とそれに適合すると判定された色彩は近い距離に布置し、不適合と判定されている色彩は遠く離れて布置された。これは前報の6色を用いた実験結果と同じく、衣服形態に適合する色彩と不適合な色彩が判定されるとき、衣服形態と類似したイメージを持つ色彩は適合すると認知され、それらのイメージが異なる色彩は適合しないと認知される傾向があることを示している。 1) 藤原、川端；織機誌，45，200(1992)